

2025 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答

2025 年度第 2 四半期決算説明会での質疑応答の要旨は以下のとおりです。

※ 本資料の記載内容は説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、ご理解いただきやすいように一部加筆修正をしております。あらかじめご了承ください。

■ 全体に関するご質問

Q 今期は営業利益が 385 億円まで上方修正され、中期経営計画の利益目標（360 億円）を超過しているが、今後、利益目標の見直しは検討されているのか。また、中期経営計画の達成に向けた課題認識があれば教えてほしい。

A 今期は、約 20 億円と見積もっている万博効果や、インバウンド需要の増加、バスの燃料費の減少などにより、期初計画を上回る着地を見込んでいるが、来期以降は万博効果の剥落や積極的な投資による減価償却費の増加が見込まれる。次年度以降に向けては、今期の特需をカバーすべくトップラインを上げる施策に取り組む必要があると考えている。具体的には、想定を上回って推移するインバウンド需要のさらなる取り込み、単価向上に向けたインバウンド向け企画乗車券の割引率の見直しのほか、特急料金値上げの検討も進めている。また、収益不動産投資におけるリターンの獲得などの施策も推進し、目標数値のスパイラルアップを目指す。

Q 収益不動産の取得が順調とのことだが、中期経営計画期間中において、当初の計画を上回る投資の実行も視野に入っているのか。

A 今期は施工計画の見直しや見積りの精査により、投資額は期初計画から若干減少しているが、基本的に進捗の遅れはない。今後の投資額については、利益見通しや財務状況を踏まえて検討するが、現計画の範囲内でやりきる想定で取り組んでいく。

Q 不動産投資の積み上げが進んでいるとのことだが、ノンコア・アセットや低稼働資産の売却の進捗について教えてほしい。

A ROIC 経営の推進として、まずは物件別・事業別の ROIC・利回りを把握する取り組みを開始した。利回りの低い資産も出てきているが、売却すべきか、改善して継続保有すべきかを社内で検討しており、今後もこの取り組みを進めていきたい。

Q 借入に関する開示があったが、借入と社債の比率の変更など、負債調達の観点で方針の変化があれば教えてほしい。

A 本年 7 月にシンジケートローンに関する開示を行ったが、金融庁の内閣府令改正による開示の義務化に伴うもの※である。社債から借入にシフトしたわけではなく、起債環境や条件比較の結果、当該時点でシンジケートローンが最適と判断した。今後も、社債を含め、環境や需要に応じた資金調達を検討していく。 ※連結純資産額の 10%以上の財務制限条項がついた調達を実施

■ 各事業に関するご質問

Q 大阪・関西万博閉幕後の10月の鉄道利用状況について教えてほしい。

A 万博閉幕後は、開催期間中と比べて数%の減少が見られるものの、主要な駅の利用動向を見ると、前年同月比では上回る傾向が続いている。短期間の動きだけでは判断できないが、月次実績などを通じて動向を把握していく。

Q 運輸業の利益変動要因について、今期の期初予想に対して上方修正となった部分は、上半期が中心であると考えられるが、上方修正の金額のうち、来期も残る部分と消失する部分について数値的な面も交えて教えてほしい。

A 運輸業では期初予想から35億円の上方修正を行ったが、万博効果による鉄道・バスの増益は約7億円で、これらは来期には剥落する。それ以外の主な上方修正の要因は、インバウンド需要が想定を上回ったこと（空港線の伸びが10%程度に増加）で約5億円、バス・フェリー事業の燃料費単価の減少で約5億円、泉北高速鉄道との経営統合の見立てのずれによる減価償却費の減少で約5億円などである。インバウンド需要は足元でも10%程度の増加が続いており、この勢いが来期も継続すると想定しているほか、燃料費の減少は、暫定税率の廃止により、来期に向けてもう一段の減少を期待している。一方で、投資の進捗により、減価償却費はベースとしては増加トレンドではあるものの、足元の減少傾向が一定程度反映されていくものと考えている。

Q 近畿大学病院の泉ヶ丘への移転による旅客増加の効果について教えてほしい。

A 近畿大学病院が約800床の病床を持つ「おおさかメディカルキャンパス」として、当社泉北線・泉ヶ丘駅から徒歩5分といった好立地に11月に移転した。病院利用者のほか、学生約700名、職員約3,000名の利用が見込まれており、試算では、駅周辺の交流人口は1日当たり5,000名以上増加する見込みであり、当社鉄道線の乗降人員の増加も期待される。まだオープンしたばかりであり、乗降の大きな変化を確認できていないが、今後の動向を注視していきたい。

Q 今期、空港線の成長率は10%程度と高水準が続いているが、中期的な目線として、今後3～5年の平均成長率の見通しを教えてほしい。

A 今後の関西国際空港における発着枠数の拡大などの航空需要を踏まえ、5%程度の成長を想定して中計を策定している。しかし、直近では空港線の伸びが10%程度と想定を上回っていることから、今後のアップサイドは空港需要の動向を見極めながら検討していく。

Q 「デジタルエンターテインメントCITY構想NAMBA」における具体的なコンテンツや収益拡大が期待できる時期について教えてほしい。

A デジタルエンターテインメントCITY構想については、なんばを拠点に沿線各所に展開できればと考えている。現在、eスポーツ事業は、BtoGビジネスとして、自治体との共創や補助金を収益源として取り組んでいるが、昨年11月に設立された「大阪eスポーツラウンドテーブル」などeスポーツに官民の注目が高まる中で、当社は事務局を担うなど、業界でのプレゼンスを高めている。このようなアドバンテージを活かし、マネタイズに繋げていきたい。今期の段階では事業として利益が出せる状況には至っていないが、事業育成を目指し、デジタルを活用してリアルの価値を高めていくことに実証実験的に取り組んでおり、今後新たな事業計画を打ち出した段階で、詳細についてお示ししたい。

以 上